

# 萩の郷

No.122

2025.10.15発行

発行者:下市田区

発行責任者:光沢金良

印刷:龍共印刷株式会社



## 体を動かし健康で長生き

### 萩の郷ふれあい広場(敬老祭)

下市田区と下市田支館主催の令和7年「萩の郷ふれあい広場(敬老祭)」が9月28日、区民会館ホールで開かれました。75歳以上の区民のうち約120人が参加し、敬老式典、フレイル予防講座に続き、祝宴、ステージ発表を楽しみました。

コロナ禍で4年にわたり中止した後、昨年も夏にコロナ感染者がやや増加したため飲食抜きで開催しましたが、今年は飲食を伴う祝宴も復活し、コロナ禍の前を上回る参加者で会場がいっぱいになりました。

今回は新たな試みで、バス送迎の足を延ばす形でミニ町内巡りも実施。35人が参加し、バスの窓から建設中の竜神大橋を見たり松岡城址から喬木村のリニア工事現場を展望したりしました。最後にあんしん市場で買い物も。

敬老祭にあわせ、区では今年も米寿(88歳)と卒寿(90歳)以上の132人に長寿祝いを贈呈。敬老式典では、卒寿と米寿でそろって参加した松原甫さん、八恵子さん夫妻(5区)が代表で区長から長寿祝いを受け取り、参加者の中で最高齢95歳の福島壽子さん(6区)が謝辞を述べました。

フレイル予防講座では、町健康福祉課で高齢世帯訪問を担当しつつ運動指導の活動をしている宮澤恵子さんが講師となり、健康で長生きするために日常的に家でできる運動を紹介しました。

祝宴に入り、ステージ発表では御柱木遣・喇叭保存会、飯田マジッククラブ、ナープアオハワイ(フラダンス)、高森ニューサウンズ、3区高寿会歌謡会が多彩なステージを披露しました。

9月30日現在、下市田区の75歳以上は約840人。最高齢は101歳で百歳以上は3人、昭和元年生まれの白寿(99歳)が3人となっています。



## 区の状況と取り組み 安全安心のため地区計画策定

区長 光沢金良

早くも今年度の半年が過ぎようとしています。不慣れななかで、前任者に「相談役」として残っていたいただき、各委員会やお祭りなど「顧問」をお願いするなど、たくさんの方々のお力添えを頂きながら進めさせて頂いております。

7月の「萩の郷夏祭り」は準備運営等を支館の皆さん中心に万全にして頂いたので、夕立も除けて行き、反省はあるものの盛大にでき、ご参加の皆様にお礼を申し上げます。

現在、来期分の「地区計画」を策定中であり、これは皆さんの身の回りの安心安全のために、道路や井水などの改修等を要望から計画までまとめ、町にあげるもので、大勢の皆さんに加わって頂きたいと思っています。

また、従前より自治会離れが進み、加入が半数程度になるなかで、本来の自治

のあり方とそれを踏まえて

今後のあり方について、引き続き地域づくり委員会（運営委員会を改称）で検討し、改善点を実施しております。

猛暑の夏から秋へと当たり前のように移りゆく中で、

## 地域づくり委員会2年目 活動の意味発信も重要

支館長 矢澤民樹

下市田区では昨年度から自治会活動全般を見直す運営委員会を設置し、ほぼ月1回のペースで話し合いを重ねています。今年度は「地域づくり委員会」に名称を変え、新委員も加わって活動を継続しています。

今後の下市田区が進むべき方向について具体的な姿はまだ見えてきませんが、明確になってきたことはいくつかあります。

まず自治会に期待する役

来るべき大災害や時代の変わり目に、微力ながら皆様とともに対応してまいりたいと考えておりますので、今後とも御支援ご協力をお願い致します。

## 備品の管理状況 監査委員が確認

監査委員は8月26日、下市田区、下市田支館、萩山神社の備品監査を実施しました。委員3人で担当を手

割として多くの人が挙げるのは防災です。まずは防災に徹底的に力を入れるというのもありでしょう。

一方、多くの人が自治会を負担に感じる最大の理由は役職に就くことです。加入者が減ると役職が回ってくる頻度が高くなり、それが脱退の理由になり、果ては常会ぐるみ脱退という例も散見されます。

私自身も転入者ですが、私のいる2区では割と多く

分けし、それぞれ備品台帳と照らし合わせながら現物の有無や数量、管理状況をチェックし、いずれも適切に管理されているものと確認されました。

前回2年前の監査では、備品管理を簡素化するよう監査委員から指摘があり、区では基準を設けて備品と消耗品を区別し、台帳を整備し直しました。また古いものや使わないものは適切

の転入世帯が常会に加入し定着しています。私の常会は、資源ごみ回収の立ち合いも里道づくりの通学路清掃も何でも回り番（高齢世帯は免除）です。何でも常



ワークショップで考えを出し合う

に記録を残しつつ除却を進めました。



防災倉庫の備品を点検

会長が背負うのではなく、負担の分散ができています。安協などもみんな交代でやります。

2区でも高寿会は解散しました。でも親睦のつながりは残っています。従来の組織や活動が継続できなくなっても、そういう「ゆるいつながり」を保つていくこともいいと思います。

行動と情報発信を通じ、自治会の活動やその意味を常に発信することも重要です。負担軽減も必要ですが、意味のある活動であればこそ、多少は負担でも「やろう」という気になるのではないのでしょうか。

## 高森町議会議員改選 下市田区新町議4氏の抱負

## 福沢 嘉言 氏

産業建設委員  
議会運営委員

5区



私は無投票ではいけないと思い立候補しました。残念ながら無投票となり、選挙公報も発行されず、どこの誰が何の主張や目的をもって立候補したかも分からず、町民の皆さんが何の意思表示することもなく、新議員が決まってしまいました。

私は20年ぶりに議員として再活動するわけですが、初心と同じく、住民目線で物事を判断し、町の将来を見据えた考えを持ち、活動していきたいと思っています。

まずは「日本一選挙に出やすい町づくり」を目指します。多様な人たちが大勢、自分の主張や思いをもって立候補し活発な選挙戦になることが、町の活性化の第一歩になるのではないかと考えるからです。

身近な課題として、荒廃地や農業放棄地の雑草対策、現在の自治会の在り方等についても取り組んでいきたいと思っています。

## 三浦喜久夫 氏

副議長・産業建設委員  
議会運営委員

3区



議会基本条例が制定され、議会改革も進行途中。議員としての活動を継続して、町民に開かれた議会、身近に感じてもらえる議会になればと思います、3期目議員を目指しました。

議員活動の柱として、①町民皆健康意識を高め、100歳まで歩ける足で日本一健康長寿の町に、②防災・減災に向け自助・共助、助け合いの心で安心に住める町に、③豊かな自然を大切にして環境意識を高め、ゼロカーボン社会を次世代につなぐ町に一を掲げました。

下市田区の課題は、自治会未加入者と区・自治会運営について、喫緊の課題と思います。また、リニア新幹線開業が延びたとはいえ、座光寺以北の国道153号の4車線化をどう考えるか。2つの課題はすぐに解決できることでありませんが、少しずつ前に進めていく必要性を感じます。区民のみなさんの力になれるよう誠心誠意努力したいと思います。

## 久保田 稔 氏

総務民生委員  
議会だより編集特別委員長

3区



この度、下市田3区から町議会議員を務めさせていただくことになりました、久保田稔と申します。これまでサラリーマンとして仕事に励んでまいりましたが、町や地域のことを考える余裕もなく過ごしてきました。年齢を重ねるにつれ政治に関心を持ち、YouTubeを通じて石丸伸二さんを知り、東京都知事選を見たことをきっかけに「自分も世の中に貢献できる人間でありたい」と思うようになりました。立候補を決意したのは、地域政党「再生の道」の理念に感銘を受けたからです。国民の政治参加を広げ、自治体の自主性と自立性を高め、地域の活性化を進めていくという考え方に強く共感しました。

人口減少と政治離れが進む中、若い世代が立ち上がらなければ次の世代に良い高森町を残すことはできません。同世代の方々にも政治に関心を持ち、共に行動していただけるよう努めてまいります。

## 木村 典雄 氏

産業建設副委員長  
議会だより編集特別委員

4区



私は、区や自治会の役員を仰せつかって以来、地域や町の中にある様々な課題を目の当たりにしてきました。そして、それらの課題にぶつかるたびに「その道に詳しい方、関心を持たれている方」のお話をお聞きする機会も得ました。

自治会、農業や事業、教育や福祉、道路交通網、萩山神社、防災等々、どの分野にも課題が山積です。放っておいてよい課題など一つもありません。手を付ければ苦労もありそうです。

しかし、私はその苦労も乗り越えられる人材が下市田には大勢いらっしゃるかと確信しています。「皆の英知を結集して一つ一つ課題の解決に向けた取り組みをする」ことが必ずできる条件はある、と思っています。

微力ではありますが、私もそうした取り組みの輪に加わり、下市田の地域や町の発展のために働きたいと思っています。よろしくお願いします。

# 室内モルックが流行中

## 各分館コミュニティ事業

### 4区分館

#### スポーツと焼肉

分館長 橋都 淳

6月29日に南小学校をお借りして4区スポーツ大会を開催しました。体育館では27名が参加してポッチャとモルックを、グラウンドでは15名が参加してスローピッチソフトボールを行いました。

体育館では、子どもから高齢者まで幅広い参加者があり、子どもたちが走り回って賑やかに交流ができて、グラウンドでは少ない



南小体育館でモルック

人数でしたが、暑い中2チームに分かれて試合形式でソフトボールを楽しみました。

スポーツ大会終了後は、夕方から生活センターで焼肉交流会です。スポーツ大会より参加者が多くなるのが恒例ですが、今年は上積みがなく、参加者の入れ替わりはありましたが、同人数の参加でした。

### 6区分館

#### 地域親睦の一助に

分館長 新井博文

6月22日に下市田6区親睦モルック大会を開催しました。6区では昨年からイベントの種目としてモルックを選択し、今回が2回目の開催になりました。

モルックは屋内で開催できるので、天候に左右されず、またルールも簡単なので、子どもからご年配の方まで、お気軽に参加してい

焼肉を堪能した後は、片付けが終わっても話し足りなくて、居残り組が大量発生するのも恒例です。文字通り、貴重な交流の場となりました。



スポーツの後は恒例の焼肉

### 5区分館

#### 6チーム総当たり

分館長 北原清和

毎年恒例になりました下市田5区分館のスポーツ大会を6月15日に区民会館大ホールにて開催しました。競技は3年目になるモルックを行いました。参加者40人余りを6チームに分け、総当たりで、3時間ほど楽しい時間を共有できたのではないかと思います。

本来の常会対抗戦であれば、また違う盛り上がりがあるのですが、なかなか

想像していた以上に、盛り上がった様子でした。

全試合が終わり、1位から4位までのすべてのチームの皆さんに賞品をお持ち帰りいただき、参加していただいた皆様の親睦の一助にできたかなと思いました。

一方で、参加者数自体は決して多いとは言えず、少子高齢化が特に進んでいる当地区の事情を鑑みると、親睦のイベントとしてスポーツを選ぶのは検討の余地があるとも感じました。



想像以上の盛り上がり



モルックで楽しい時間を共有

か人数が集まらないのが現状ですが、最後は懇親会で盛り上がり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

## 1区分館

## 親子ふれあい教室

分館長 船田 智

下市田1区の今年度分館事業は、昨年に引き続き、親子ふれあい教室の年2回の開催と文化交流会を計画しています。

第1回目は「サツマイモの定植とEスポーツ体験」と題し、6月1日に小中学校PTA役員、南北育成会、中学校ボランティアの皆さんの協力を頂き、実施しました。はじめの会の後、畑に移動し、中学生ボランティアの皆さんがサツマイモの苗を配布し、植え方のレクチャーをして植え付け



サツマイモの苗を植え付け

ました。作業終了後は、看板を子ども達全員で手書きして設置し、その前で記念撮影。会場は笑顔が溢れていました。

昼食はPTA役員さんの愛情一杯のカレーライスを全員で食べ、中にはお代わりをする子どもさんもありました。

食事後はEスポーツ体験をモニター3台で中学生ボランティアに指導してもらいながら順番良く行い、ここでも笑い声で会場が一杯になりました。

今回は11月9日に「サツマイモ収穫とお餅つき」と題し、つきたての餅をあんこ餅、きなこ餅にして食べる計画をしています。



子どもに人気のEスポーツ

## 2区分館

## 納涼祭、モルック

分館長 塩沢 健二

7月12日午後5時より、下2会館で第32回下二納涼祭を行いました。天候にも恵まれ多くの来場者があり、特に暑さも加わって、かき氷、綿菓子も多くの人で賑わいました。

開会前には初の試みでEスポーツも行いました。会館内では演奏やダンスがあり、小さなお子さんのダンスは人気がありました。最後のお楽しみ抽選会も盛り上がり、有意義な1日となりました。

◇ ◇  
9月7日午後、下2会館大広間で常会対抗モルック大会を行いました。



熱戦が相次いだモルック大会

## 3区分館

## マレットで交流

分館長 上村 敏幸

6常会からの8チームに自治会役員を加えた9チームが参加。大人たちの中に小学生2名や女性も数名交じり、熱戦に次ぐ熱戦で最後まで大変盛り上がった大会となりました。最初は予想もしなかった最高得点50点。ピッタリが連発し、開始から5分で決着がつく試合もありました。

終了後は慰労懇親会があり、こちらも大会同様に大変盛り上がりしました。

下市田3区分館では9月21日に山吹田沢マレットゴルフ場でマレットゴルフ大会を行いました。

去年は雨で中止になり、今年も前日、雨が降って心配していましたが、大会当日は晴れ渡り、良いスポーツ日和となりました。子どもから大人まで14名の参加で、去年よりちょっと少ない人数でしたが、賑やかくできました。

開会式で分館長あいさつ、分館主事のルール説明、



スポーツ日和にマレットゴルフ

前日の雨で水たまりがあり、子どもも大人も苦労してホールをまわり、「失敗!」「上手くいった」と歓声が上がったり、子どもにルールを教えながらまわったり、どうすれば上手にまわるかメンバーで攻略したり、楽しくできました。

参加賞として、1位から3位、4位から12位まで、商品券が全員に出ました。毎年参加人数が少なくなってきた、来年はどうなるか分かりませんが、これからも3区の人たちが楽しくてくれる行事を行ってきたいと思います。

# 巨大地震想定し総合防災訓練 未加入世帯対応は検討課題

副区長 壬生直幸

高森町地震総合防災訓練が9月7日朝6時から「南海トラフ巨大地震／震度6弱(全町広範に被害)」の想定で行われました。

各地区ごとに避難を開始し、安否確認・集計を行い、下市田区では6時10分に災害対策本部を開設し、7時35分に町災害対策本部へ安否確認集計報告を完了しました。総世帯数872、避難者数1149人、無事確認者数1599人、未確認者数52人、その他12人、計2812人でした。多くの皆様のご参加ありがとうございました。



区民会館の災害対策本部

各自治会の独自訓練として、消火栓の取り扱い訓練、消火栓の設備点検と放水確認、災害用備品台帳の作成、避難所開設訓練(テント設置、発電機の操作訓練)、災害時緊急支援カード提出、地区タイムライン・マイタイムラインの確認・検証、我が家のハザードマップ作りなどが行われました。

また、反省・課題として、未加入世帯の確認、避難所での未加入者対応、要支援者・高齢者の救助確認、留守の場合の安否確認方法がありました。



3区は避難所開設の訓練も

## まず家具の固定実行を

防災研修会 町と区の取り組み報告も

下市田区は9月20日、区民会館で今年度第1回の防災研修会を開催。防災組織関係者、常会長など約60人が参加し、町防災アドバイザー大蔵正明氏(飯田ボランティア協会理事長)の講義で「減災のための自助の取り組み」について学びました。

初めに代田貞治防災委員

長が区のタイムライン(洪水・土砂災害版、地震版)について説明。光沢区長は三六災害で南小学校グラウンドに集まった水によって下の崖が深層崩壊した時の様子を語り、当時の水路の状況にも触れて、水が集まる場所など身の回りの危険個所に注意するように呼びかけました。



充実した内容の防災研修会

まい、非常持出袋の準備状況確認、避難所間の確実な連絡方法の検討などがありました。日頃から住民同士のつながり・助け合いを大切にしましょう。

## 初の住民参加型 避難所開設体験

防災訓練の第2部で、町は町民体育館で避難所開設体験会を開催。自治会役員が参加し、防災士会の手ほどきで折り畳み式ベッド、間仕切りテントの組み立てを体験しました。



間仕切りテントの組み立て体験

町はことし各区に避難所の備蓄資機材を分散配備し、下市田区には折り畳み式ベッド87、間仕切りテント43が配られています。

続いて町の平沢元啓防災安全係長が町の取り組みについて説明。2年前に発足した防災士会の活動を紹介するとともに、町公式LINEで配信している防災クイズを紹介しました。

大蔵氏の講義では、減災のために家庭で行っておくべき自助の備えについて具体的に説明。災害が発生した後の行動について訓練するだけでなく、災害が発生する前の対応が重要だと力説し、必ず家具の固定を行うように呼びかけました。また大蔵氏は安否確認訓練の課題を指摘し、日頃からの隣組のつながりが安否確認や救助のポイントになることを説明しました。

## 高校受験に向けて

中3 手塚莉緒奈(5区)

私は勉強があまり得意ではありませんが、高校受験に向けて毎日努力しています。苦手な教科も逃げずに取り組み、問題集を繰り返し解くことで、少しずつ理解できるようになってきました。

最近では授業の予習や復習も心がけ、学んだことを定着させるようにしています。

まだ十分ではありませんが、努力を続ければ成果につながるかと信じています。

受験本番で力を発揮できるように、これからも集中して勉強を重ね、自分の力を伸ばしていきたいです。

合格を目標に最後まで諦めず挑戦し、努力の成果を必ず形にしてみたいです。



## わたしの作文 ぼくの作文



### 私の大切な思い出

中3 酒井 椿(6区)

私は中学生生活の3年間、ソフトテニスに打ち込みました。

1・2年次には、ペアと協力して新人戦を勝ち進み、県大会出場を果たしました。

厳しい練習も、お互いを信じて励まし合ったからこそ乗り越えられたと思います。

そして、引退をかけた最後の中体連では、南信大会



でベスト4に入り、再び県大会の舞台に立つことができました。

ペアと何度も話し合って戦ってきた日々は私の大切な思い出です。また、周りで支えてくれた家族の存在があるからこそ結果だと思うので、感謝を忘れないようにしたいです。

## 枯損木が倒れ石灯籠全壊

萩山神社 秋季例大祭の前日

9月12日午前11時頃、萩山神社境内でモミの枯損木が倒れ、拝殿の石灯籠が直撃を受けて全壊しました。

倒れたのは拝殿わき、枝宮のすぐ裏にあった木で、高さ27〜28メートル、直径約50センチメートル、年輪を数えると推定樹齢180年。根元のあたりが腐って空洞になっており、自然に倒れたと見られます。

この日は秋季例大祭の前日、準備のために神社総代が朝から集まり、この木が大きく傾いていることに気付いたものの、すぐに倒れるとは思わず、「いざれ切り倒さなければ」と話していたとのこと。

ところが午前11時頃、総代たちがすぐ横の拝殿の前で日章旗を掲げる作業をしていたところ、突然「ザーッ」という音がして木が倒れました。幸い人的被害はありませんでしたが、石灯籠が全壊したほか枝宮

の屋根の端が破損し、欄干にもひびが入りました。

どうやらこの木は傾いて近くの木に引っかかって止まっていたものの、この枝が折れて一気に倒れたようです。倒れる方向が悪



枝宮をかすめて倒れた老木



壊れた石灯籠

ければ拝殿か枝宮を直撃した可能性もあります。

石灯籠は「大正七年一月建設」と刻まれており、107年経過しました。ほとんどの部材が割れてしまったため、全面的に取り換える必要があるとのこと。倒れた木は邪魔になる部分を切断して片付け、翌日から秋季例大祭は滞りなく執り行われました。

萩山神社は老木が多く、危険防止のため年に1本ほどのペースで伐採していますが、費用がかかるためなかなか処理が進まず、関係者は苦慮しています。

## 編集後記

アフターコロナの事業のあり方を模索しながら、夏祭りは3回、ふれあい広場(敬老祭)は2回を経験。従来の形を踏襲した部分もあれば変えた部分もあります。が、いかがでしょうか。

大小のミスもあり、いろいろ改善すべき点がありますが、スタッフの経験が再びつながり始めたことは今後への大きな一歩です。

# 「踊る阿呆」が一番楽しい

## 萩の郷夏祭り 芝生広場に800人

下市田区は7月26日、区民広場で「萩の郷夏祭り」を開催しました。区内外から800人以上が集まり、真夏の夕べ、楽しいひと時を過ごしました。

開会直前に一時、雨と強風に見舞われたものの、予定通り進行できました。出演団体のみなさんは雨上がりの芝生で元気いっぱいパフォーマンスを披露。「踊る阿呆に見る阿呆」

の言葉通り、このイベントを一番楽しんでいるのは出演団体の子どもたち、大人たちだと実感しました。

